

プログラム一覧/Programs Table

一般用プログラム/Common use Programs

名 称	解 説	ページ
分析/Analyze コンピュータ	〔分析〕は、マトリックス内にある“物体(ノード/ユーザー/プログラム等)”に関するデータを精査するために、システムリソースの分析やレジストリの参照等を複合的に処理するプログラムである。〔分析〕は、主にマトリックス知覚(p.235)やハッキングの感知(p.241)に使用される。	245
検索/Browse データ検索	〔検索〕は、特定ノード(あるいはマトリックス全体)での情報収集を支援する特殊な検索ルーチンである。これは主にデータ検索(p.239)に使用される。	245
命令/Command (様々)	〔命令〕は、マトリックスを介しての機器制御のために使用される(監視カメラ/ドローン(p.260)/エージェント(p.247)/電子システム)。	246
編集/Edit コンピュータ / ハッキング	〔編集〕は、ワープロソフト、グラフィックソフト、ビデオ/アニメーション編集ソフトの統合ソフトである。あらゆる種類のファイル(テキスト/CG/ビデオ/トリデオ等)を作成/変更/消去できる。編集ソフトは一般社会においても広く使用されているが、ハッカーたちの破壊活動にも使用されている。こうした使用に関しては「編集する」を参照のこと(p.238)。これ以外に〔編集〕は、ファイル転送やeメールの送信、テレビ会議等にも使用できる。データ転送にも、あらゆる種類のファイルが対応している(p.238)。	246
暗号化/Encrypt 電子戦	〔暗号化〕は、ファイルの閲覧やノードへのアクセス、ノード間の通信等を暗号化するためのプログラムである。暗号化されたものは、適当なパスコード(p.234)なしにアクセスすることができなくなる(パスコードがなければ意味不明なものとして感じる)。また、複数のファイルを1つに圧縮し、暗号化することも可能である。〔暗号化〕は「暗号化」(p.245)に使用される。	246
仮想現実フィルター/Reality Filter 【レスポンス】	〔仮想現実フィルター〕を使用することで、ノードが持つVR形状(p.248)をユーザーの選んだモチーフに変換することができる。システムが持つモチーフを抑え込むために、〔仮想現実フィルター〕+【レスポンス】対ノードの【システム】+【レスポンス】による対抗テストを行う。ユーザーが純ヒットを得れば、形成したパラダイムをノードの信号に上書きし、そのノードにいる間、【レスポンス】に+1のボーナスを得る。しかし、システムが勝利していたならば、【レスポンス】に-1のペナルティを受けてしまう。	246
走査/Scan 電子戦	〔走査〕は、無線ネットワークを発見するために使用される。全ての無線機器のOSにはレーティング1の〔走査〕が組み込まれているが、より高度なアクセス管理を望むならばより良いプログラムにアップグレードできる。〔走査〕は、無線ノードの探知(p.244)に使用される。	246

ハッキング用プログラム/Hacking Programs

名 称	解 説	ページ
装甲/Armor	〔装甲〕は、アイコンをダメージから防護する緩衝ソフトウェアである (p.250) .	246
攻撃/Attack サイバー戦闘 / ハッキング	〔攻撃〕は、プロセスの無効化やランダムな入力の挿入、バッファ・オーバーフロー、プログラムの誤動作、それらに類するプログラム/アイコンの破壊と言った敵対的コードを統合したプログラムである (p.250) .	246
生体信号フィルター /Biofeedback Filters	〔生体信号フィルター〕は、危険なシムセンス信号を監視予防するソフトウェア・ルーチンである。これは〔ブラックハンマー〕や〔ブラックアウト〕からハッカーを保護するために使用される (p.250) . テクノマンサーは【魅力】と同じ値の〔生体信号フィルター〕複合体を備えている。	246
ブラックハンマー/Black Hammer サイバー戦闘 / ハッキング	このプログラムは、目標とそのコムリンク間の命令処理を見極め、目標のシムセンス・インタフェースに深刻な生体フィードバック反応を引き起こす信号を注入する。この BTL 級の信号は、目標の神経接続に過負荷を与え、その結果、意識不明/精神障害/洗脳等の精神的なダメージを受けたり、心不全/呼吸困難/動脈瘤/神経伝達物質の異常分泌等の身体的なダメージを受けたりする (p.250) .〔ブラックハンマー〕は、ホットシムでアクセスしているハッカーに対して設計されている (コールドシムのユーザーには精神ダメージしか与えられない) . また、プログラム/エージェント/IC/スプライト/AR ユーザーには効果を発揮しない。	246
ブラックアウト/Blackout サイバー戦闘 / ハッキング	〔ブラックアウト〕は〔ブラックハンマー〕の簡易版であり、身体ダメージではなく精神ダメージしか与えられない (p.250) .	246
データ爆弾/Data Bomb	〔データ爆弾〕は反応型攻撃プログラムである。これは特定のファイルや機器に取り付けられ、アクセス権限がない者が、ファイル/機器にアクセスしようとした場合に起動する。起動すると、〔データ爆弾〕は「爆発」し、不正にアクセスしたアイコンに被害を与える。また、設置者はアクセスされたファイルが消去されるように設定することもできる〔データ爆弾〕は、ファイルや機器に1つだけしか設置できない。また〔暗号化〕で保護されているアイコンにも設置できる。こうした〔データ爆弾〕を探知するためには、マトリックス知覚テスト (p.235) に成功しなければならない〔データ爆弾〕の解除には、解除パスコードが必要である。パスコードなしに解除するためには、〔データ爆弾〕を探知し、データ爆弾の解除 (p.243) に成功しなければならない〔データ爆弾〕は、レーティングに等しいマトリックス・ダメージを与える。1度爆発したならば〔データ爆弾〕は消滅する。	246
暗号解読/Decrypt 電子戦	〔暗号解読〕は暗号化されたシステムやサービスに侵入するための一連の処理 (パターン解析/複雑な数学的トリック等) を1つにまとめたプログラムである。このプログラムは、暗号の解読 (p.245) に使用される。	247

名 称	解 説	ページ
解除/Defuse ハッキング	〔解除〕は、ファイルや機器を保護しているデータ爆弾を無力化するために使用される (p.243)。	247
ECCM/対電子妨害手段	〔ECCM〕は、無線接続を阻害するジャミングを除去するために使用される。ジャミングに抵抗する場合、〔ECCM〕のレーティングを保護する電子機器の【シグナル】に加えることができる (p.245)。	247
侵入/Exploit ハッキング	〔侵入〕は、常に進化し続けるハッカー・ツールの1つであり、セキュリティ上の欠陥と弱点を突くことに特化したプログラムである。このプログラムは、認証アクセスなしにハッキングする際に使用される (p.234)。	247
修復/Medic コンピュータ	アイコンが受けたマトリックス・ダメージを修理するために〔修復〕は使用される。このプログラムは、一般ユーザーが破壊されたファイルや不調なプログラム、その他のエラーを修復するために使用しているだけでなく、サイバー戦闘の後でも機能を維持し続けようとするハッカーも使用する。また、ICの中にもこのプログラムを搭載しているものがある。アイコン修復 (p.238) には〔修復〕を使用する。テクノマンサーに対しては〔修復〕は効果を発揮しない。ただし、テクノマンサーは〔修復〕複合体によって、ペルソナ/エージェント/スプライトを治療することはできる。	247
傍受/Sniffer ハッキング / 電子戦	データ通信や無線信号の妨害、情報の走査/抽出のために〔傍受〕は使用される。〔傍受〕は、マトリックスを調査するユーティリティの究極形であり、データ通信への干渉 (p.243)/無線信号への干渉 (p.245) に使用される。	247
偽装/Spoof ハッキング	〔偽装〕は、アクセス ID の偽造 (p.244) や〔追跡〕の攪乱 (p.243) に使用できる。また、エージェント/ドローン/スプライトに偽の命令を与えるにも〔偽装〕を使用する。	247
隠密/Stelth	〔隠密〕は、狡猾なハッカー・プログラムであり、ハッカーの活動履歴をあいまいにさせたり、痕跡をシステムから消去したり、認証されたデータ通信を模倣したりすることにより、ハッカーをシステムから“見えない”状態にする。〔隠密〕は、ファイヤーウォールの監視からハッカーを隠し、システムに侵入させる手助けをする (p.241)。また〔分析〕や〔追跡〕からハッカーを保護するためにも使用できる。	247
追跡/Track コンピュータ	〔追跡〕は、目標の接続を系統的に分析し、発信ノードまでその痕跡を辿ることができる。これはハッカーを識別逆探知したり反撃を行うための侵入対策として IC が主に使用する。〔追跡〕は追跡として使用される (p.238)。	247

- ・プログラムの限界：【システム】以上の値を持つプログラムは正常に起動せず、プログラムのレーティングは【システム】まで低下する。
- ・プログラムの起動による【レスポンス】低下：1度に【システム】以上のプログラムを起動した場合、【レスポンス】が1点低下する。こうした低下は【システム】個のプログラムを起動するごとに発生する。

オートソフト・プログラム/Autosoft Programs

名 称	解 説	ページ
鮮明化/Clearsight	鮮明化 オートソフトはセンサーからの入力を的確に分析/判断し、パイロットの認識能力を向上させる働きがある。このオートソフトを持つドローンは、センサー・テスト (p.174) の際に、【センサー】+ 鮮明化 を使用できる。	261
防御/Defense	このプログラムを持つドローンは、攻撃を明確に判断し、それに対して回避/防御行動をとることができる。ゆえに、近接戦闘に対して受け流しを行ったり (【パイロット】+ 防御 を使用)、複雑動作を用いて戦力防御 (p.162) を行ったりすることができるようになる。	261
電子戦/Electronic Warfare	これは無線通信と対ドローン電子戦についての詳細な知識を提供する。このオートソフトを搭載したパイロット・ソフトは、傍受/解読/信号妨害等といった 電子戦 によって行える行動を行うことができるようになる (p.244)。	261
機動 (ヴィークルの種類)/Maneuver	機動 オートソフトはヴィークル技能のような技術を提供するプログラムである。オートソフトには、対象ドローンのスペックに関する詳細なガイドを含んでおり、パイロットが最適なパフォーマンスを引き出すことを支援する。このオートソフトを搭載したドローンは、ヴィークル・テスト (p.171) の際に【パイロット】+ 機動 を使用することができる。	262
照準 (特定の武器)/Targeting	照準 オートソフトは特定の射撃武器技能を模倣したものである。このプログラムは、ドローンに搭載された武器の運用や攻撃方法をインストールする。ドローンは射撃する際に【パイロット】+ 照準 を使用する (p.174)。	262